



# 香港株式市場フラッシュ

## 米国勢と比べて割安水準の中国勢リチウム生産開発2社

リサーチ部 笹木和弘

Tel: 03-3666-6980

E-mail: kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

フィリップ証券株式会社

2022年6月1日号(5月31日作成)

### ”世界のリチウム資源生産開発市場と中国主要2社“

電気自動車(EV)のバッテリーとして利用されるリチウムイオン2次電池は、正極と負極の間をリチウムイオンが移動することで充電や放電を行う。リチウムを採掘し、正極に使用されるリチウム遷移金属複合化合物(水酸化リチウムや炭酸リチウムなど)に加工する特殊化学品業界の市場動向では、米国勢のアルベマール(ALB)とライベント(LTHM)の2社、中国勢では江西省に本拠を置く民営のガンフオンリチウム(1772/HK、002460/深セン)と四川省に本拠を置く民営の天齊(ティエンチー)リチウム(002466/深セン)の2社が強く、米国勢2社と中国製2社の4社で世界市場の約9割を占めている模様だ。それにチリのSQMを加えた5社で100%近くを占めている。

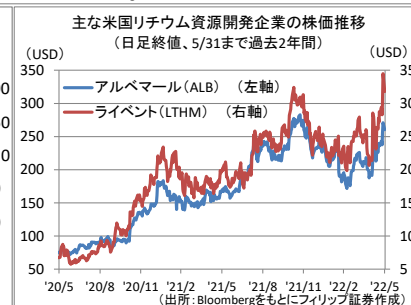
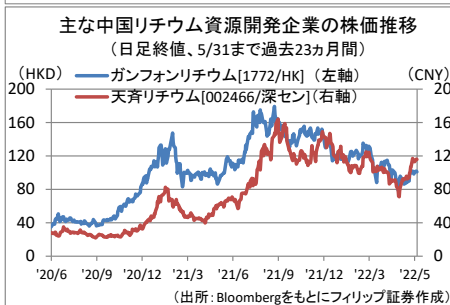
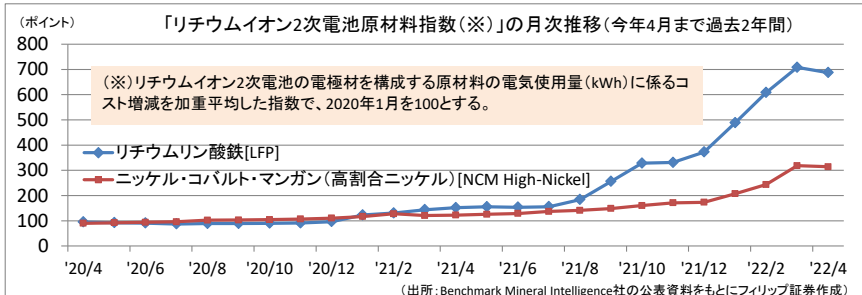
ガンフオンリチウムの2021年通期決算は、自動車業界のEVシフトを背景にしたリチウム相場の高騰の恩恵を受け、売上高が前年比2倍超の111.60億元、当期利益が同5倍超の52.30億元と大幅な増収増益を記録。水酸化リチウム生産量では米アルベマールを抜いたとも言われる。同社は、中国企業による海外のリチウム権益買収の先駆けとしてオーストラリア、アルゼンチン、メキシコほかでリチウムを生産している。更に、電池材料の供給に加えて車載電池の開発・生産にも手を広げつつあり、リチウムイオン電池メーカーとして世界的大手の一角を占める目標を有している。

天齊リチウムの2021年通期決算も、売上高が前年比2.3倍の76.63億元、当期利益が前期の▲18.33億元から20.78億元へ黒字転換。同社は2018年にチリSQM株式の約24%を取得したものの、その後の業績不振で利息の支払いにも窮する債務危機に陥り、2020年12月にリチウム権益の一部をオーストラリアの資源会社に売却していた。デフォルト危機回避から一転し、短期的な業績回復を遂げたかたちだ。

### ”中国EVメーカーが三元系からリン酸鉄系へシフト“

リチウムイオン2次電池の正極材は、ニッケル・コバルト・マンガン酸リチウムの「三元系」の内、希少金属のコバルトを削減しながら高ニッケル化を進めるのが主流だった。ところが、ロシアのウクライナ侵攻後のニッケル相場高騰を受け、コバルト不使用に加えてニッケル不使用の「リン酸鉄系(LFP)」リチウムの需要が高まりつつある。三元系は高エネルギー密度で低温時の出力が安定しているが、コストが嵩む。一方、リン酸鉄系は低コストだが、低温時出力に難がある。中国では新エネ車補助金の減少に伴い、各EVメーカーが低コストのリン酸鉄系の採用を増やす傾向にある。

このような動きは中国リチウム資源開発企業への追い風になる面もあろう。2022年の市場予想PER(5/31終値)でもガンフオンリチウムが10.3倍、天齊リチウムが12.0倍と、米アルベマールの22倍、米ライベントの28倍と比べても割安水準にある。



### ハンセン指数またはハンセンテック指数構成銘柄(全87銘柄)における終値の2021年末来騰落率

前回基準日: 20220517 基準日: 20220531

順位	2021年末来騰落率・上位10銘柄	(%)	前回順位
1	中国海洋石油 [CNOOC]	54.7	1
2	中国海外発展 [チャイナオーバーシーズランド&インベスト]	23.5	2
3	万洲国際 [WHグループ]	23.1	4
4	中国石油天然気 [ベトロチャイナ]	21.3	8
5	中国銀行(香港) [BOCホンコン]	18.0	3
6	長江和記実業 [シーケー・ハチソンHDS]	14.5	7
7	中国石油化工 [シノベック]	14.5	10
8	中国中信 [シティック]	14.4	11
9	HSBCホールディングス	14.4	14
10	中国移動 [チャイナモバイル]	13.4	9

順位	2021年末来騰落率・下位10銘柄	(%)	前回順位
87	小鹏汽車	-50.4	85
86	ピリビリ	-49.9	86
85	舜宇光学科技(集団) [サニーオプティカル・テクノロジー]	-49.3	87
84	Ming Yuan Cloud Group Holdin (明源雲)	-45.4	84
83	瑞声科技 [AACテクノロジー・ホールディングス]	-44.6	83
82	阿里健康信息技术 [アリババヘルス・インフォメーション・テクノロジー]	-39.3	72
81	比亞迪電子(国際) [BYDエレクトロニクス]	-39.0	82
80	葉明生物技术 [ウーシー・バイオロジクス・ケイマン]	-37.3	81
79	小米集团 [シャオミ]	-35.8	80
78	金蝶国際軟件集団 [キングディー・Int'lソフトウェア]	-35.5	78

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### 【2022年5-6月の中国主要経済指標】

- 5月20日(金)
  - ・1年ローン・プライムレート: 前回3.70%、結果3.70%
  - ・5年ローン・プライムレート: 前回4.60%、結果4.45%
- 5月27日(金)
  - ・4月工業利益<前年同月比>: 前回+12.2%、結果▲8.5%
- 5月31日(火)
  - ・5月製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回47.4、結果49.6
  - ・5月非製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回41.9、結果47.8
- 6月1日(水)
  - ・5月(財新)製造業購買担当者景気指数(PMI): 前回46.0
- 6月6日(月)
  - ・5月(財新)サービス部門購買担当者景気指数(PMI): 前回36.2
- 6月7日(火)
  - ・5月外貨準備高: 前回3,119兆USD
- 6月9日(木)
  - ・5月貿易収支: 前回511.2億USD
- 6月9日(木)-15日(水)
  - ・5月資金調達総額: 前回9,102億元
  - ・5月新規人民元建て融資: 前回6,454億元
  - ・5月マネーサプライM2<前年同月比>: 前回+10.5%
- 6月10日(金)
  - ・5月消費者物価指数(CPI)<前年同月比>: 前回+2.1%
  - ・5月生産者物価指数(PPI)<前年同月比>: 前回+8.0%
- 6月15日(水)
  - ・5月小売売上高<前年同月比>: 前回▲11.1%
  - ・5月鉱工業生産<前年同月比>: 前回▲2.9%
  - ・5月固定資産投資<前年同月比>: 前回+6.8%
  - ・5月不動産投資<前年同月比>: 前回▲2.7%
  - ・5月住宅販売金額<前年同月比>: 前回▲32.2%
- 6月16日(木)
  - ・5月新築住宅価格<前月比>: 前回▲0.3%

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。